

Revolution

～革命を起こそう～

大阪府立千里青雲高等学校 9期生担任団

学年通信 No. 16

2017年3月6日

「力がない」と「選べない」ということ

第2学年が終わろうとしています。高校最後の1年を迎えるみなさんに、伝えたいことを考えたので、みなさんも考えてみてください。そのための話を2つします。

突然ですが、みなさんは漫画「ワンピース」を読んだことありますか？主人公の「モンキー・D・ルフィ」が仲間とともに大秘宝「ワンピース」を求めて旅をする物語です。（私はこれが楽しみで週刊ジャンプを買っています。いつか単行本を揃えるのが夢です。）現在84巻が出版されている中で、ぜひ、みなさんに紹介したい場面があります。単行本23巻「アラバスタ編」の終盤のお話です。

『王下七武海(秩序のため、合法的に許された海賊)の「クロコダイル」が砂漠の国「アラバスタ王国」を狙っている。そのことに気付いた、「たしぎ曹長」が率いる海軍は、国盗りを阻止しようとするものの、敗北を喫した。しかし、同じように国盗りを阻止しようとする「ルフィ」が率いる「麦わら海賊団」を援護することで、クロコダイルの国盗りを阻止することに成功した。』



この事件について、「たしぎ曹長」が、上司の「スモーカー大佐」に泣きながら報告する場面の言葉です。

「敵(クロコダイル)の居場所を知っていても……(ルフィたちに)それを教えることしかできない。砲撃時刻を知っていても、彼ら(ルフィたち)を援護する事しかできない。私には 選べる正義 がありませんでした。」

法と秩序に則って平和を守ろうとする海軍が、ルフィたち(うち1人が賞金首、今でいう指名手配犯)を援護することでしか守れなかった……とたしぎ曹長は自分の無力さを後悔するのです。その後、

たしぎ曹長は、無力だったために選べなかった正義を選ぶために、強くなることを決意しました。

もう一つ、私に話しての話です。私が小学生の頃、よく「勉強しなさい」と母に言われていました。自分の中ではそれなりにしていたつもりだったのに、「どうしてここまで言うのだろうか？」と疑問に思っていました。（ニューアクションβと同じくらい厚い算数の参考書『力の5000題』に、泣きながら向き合った日々を鮮明に覚えています。）

そして中学1年生の終わる頃、母から言われた言葉があります。

「将来、あなたがどんな職業に就くのかは自由に選びなさい。お父さんと

お母さんは応援してあげる。だから勉強しなさい。就きたい職業が見つかったとき、能力がないと 選べなくなるから。」

何に対しても言えることですが、力(能力)がないと選ぶことはできません。逆に、力があると『選べること』が増えます。そして、『選べる』ということは、『やりたいことができる』ということです。しなければならないことはしなければいけません。でも、たった一度きりの人生『やりたくないこと』より『やりたいこと』をたくさんできる方が楽しいと思いませんか？少なくとも私はそんな人生を送りたいし、みなさんにも送ってほしいと思います。そのための手段として、今は勉学に励んでください。クラブ活動や校外活動にも励んでください。いろんな経験をしてください。いろんな人と話してください。そして、たくさん知識やいろんな考え方を吸収し、力に変えてください。

自分の人生を選べるように、頑張ってください！

9期生7組担任 葛川 裕晃

～今後の予定～

次回登校日：3月21日(火)

・・・終業式、模試返却、教科書販売など

クラス発表：日時：4月5日(水) 9:00～

※始業式の日まで貼りだします。

場所：食堂前

